

令和6年度 第2回学校運営協議会 議事録

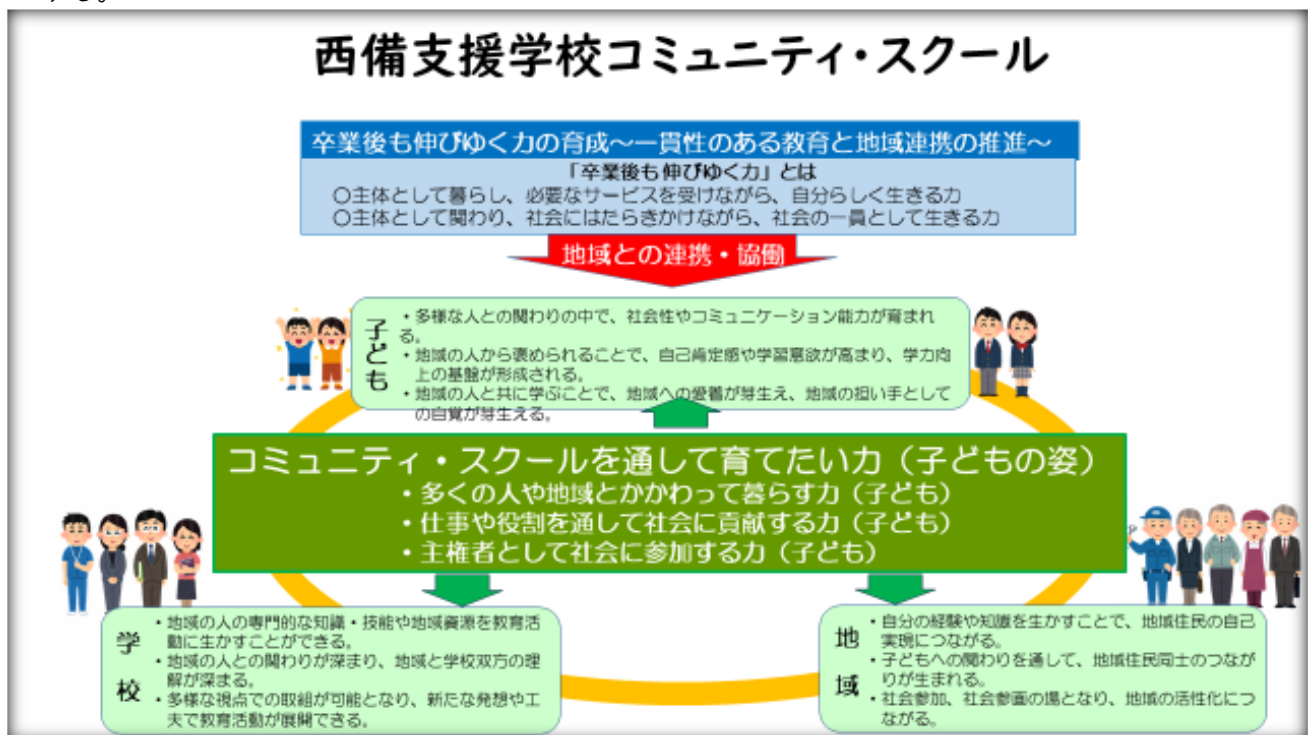
令和6年11月6日（水）9：30～

岡山県立西備支援学校：会議室

（1）開会

①開会あいさつ〈校長〉

- ・校外学習、修学旅行などの多くの行事が予定どおり実施できている。
- ・8月の中央教育審議会では、国の方針「令和の日本型学校教育」3つの柱（働き方改革、教員の処遇・改善、運営体制の充実）について答申が有り、保護者、地域との連携も含まれている。
- ・本校コミュニティースクール全体像の資料をもとに組みの方向性を説明。育てたい力を確認する。



（2）説明〈事務局〉

①本日の日程

- ・校内巡視（防災の視点から備蓄品等の保管状況）、コミュニティースクール上半期の活動内容の報告、下半期の取り組みについて意見交換、指導・助言
- ・配付資料の確認

②今後の予定

- ・第3回学校運営協議会：令和7年2月5日（水）午前中

（3）校内防災備品等見学、校内安全点検〈災害安全担当が案内〉

- ・防災備品（発電機等）、設置場所も含めて確認する。
- ・備蓄品（水、食料、その他）場所、種類など現地で確認する。

- ・防災カバン（各教室）、内容物についても確認する。
- ・福祉避難所解放教室（B、C棟、体育館他）
一般開放教室、予備教室、立ち入り禁止場所等の確認。トイレや隔離教室等、感染症対策等も含めた対応についてもイメージを伝える。（発電機の設置場所、水源、受付場所からの動線等も含む）

（４）協議Ⅰ〈進行：中野会長〉

【校内防災備品等の視察を終えて】

- ・（澤田委員）ある程度揃っているが、本当に足りるのであろうか。ロッカー等転倒防止の補助具が設置できていた。宿泊棟に主な物があるので、少し離れている場所でとりに行きにくい場合もあるのでは。
- ・（事務局）学校が福祉避難所開設となった場合、基本的に一般の方は市の危機管理室が対応するため、物品も市が準備する。現在学校にある備蓄品は緊急時に児童生徒が使用することが前提。
- ・（佐藤委員）施設では備蓄食の賞味期限が近い物を使って、授業で調理などの体験をしている。学校でも同様の取り組みをしていると思うが、今後も継続して行ってほしい。
- ・（入江委員）発電機など教員全員が実際に使用できるのか。誰が何をとりに行くのかなど分担を確認しておくべき。訓練は必要。
- ・（事務局）発電機のメンテナンスは年に１回実施している。また使用方法のマニュアルもつけている。燃料のガソリンについては古くなっている可能性がある。使用可能期限について調べてみる必要がある。
- ・（妹尾委員）福祉避難所として使用した場合の物資などが学校の物と煩雑にならないように。
- ・（事務局）搬入時のエリアを決めている。校内にあるものは本校児童生徒用に使用する。

（５）協議Ⅱ〈進行：会長〉

【コミュニティースクールの取り組みについて】＊スライド資料にて説明。

① 地域学校協働活動推進本部より〈副校長〉

- ・年度当初、教職員に現状把握アンケートを実施。
- ・学校支援ボランティアの活動報告

学校支援ボランティア活動の課題

- ・活動時間の調整（熱中症対策）
- ・活動自体の校内での周知
- ・活動していることがわかる工夫
- ・除草等、作業の中に協働が必要



- ・地域の団体への広報と役割分担
- ・校内外へSNSやの掲示板等での周知
- ・腕章の着用
- ・児童生徒、教職員との協働





西備コミュニティースクール掲示板の設置



西備支援学校
Facebook QRコード

- ・地域学校協働活動推進本部のテーマ「Well Being」

② 防災安全プロジェクト〈坂田主幹教諭〉

- ・福祉避難所としての本校の役割の説明。
- ・PTA 人権研修での防災研修の報告。
- ・本校により多くの方に来校して頂き本校を知ってもらうことが今後の課題。

防災安全プロジェクトで取り組みたいこと

- ・福祉避難所見学会（地域の高齢者向け）
- ・福祉避難所開設シミュレーション研修
- ・確実な避難訓練の実施と関係機関との連携（消防、危機管理室、市福祉課等）
- ・笠岡市防災訓練の参加

避難所運営ゲーム（HUG）




③地域活用プロジェクト〈小野主幹教諭〉

- ・校外販売の報告
- ・地域型実習
- ・地域事業所での体験
- ・地域施設の活用
- ・地域行事への参加

地域社会で主体的に生きるために

興味関心をもって主体的に学習に取り組める内容の学習

自然で必要性のある具体的な経験

地域資源の活用（校内だけでは限界）

「できた、わかった」というリアルな体験の積み重ね

認める（ほめる）

自信 次への意欲

自己を肯定的に捉えることができる

主体的に
生きる
原動力



④グループ協議（２つのプロジェクトに分かれて）

地域活用プロジェクト

- ・ 偕楽園の実習は受け入れ側からすると良かった。偕楽園は障害者雇用を積極的に実施している。
- ・ 販売場所の新規開拓。休日の販売は地域の方や保護者が同行するというのも良いかも。地域の行事に生徒が参加をして販売する。販売に見合った商品の数も必要。定期的に販売できるような機会があればPRされていく。地域の方に来て頂いての販売は生徒を知ってもらう良い機会になりそう。
- ・ 地域型実習、例えば市役所などの清掃。喫茶店。今日のような会議でのお茶出し。（校内で接遇を学習してから）

防災安全プロジェクト

- ・ 避難訓練の改善。第三者の立場でアドバイスがほしい。２名の方を紹介していただいた。
- ・ 障害がある人の福祉避難所が少ない。
- ・ PTAが中心となった自主防災組織の結成も考えていく。

（６）指導助言〈各委員より〉

〈秋田委員〉防災に関して色々知ることができて良かった。市内の学校はまだまだすすんでいない所が多いので市に訴えていきたい。

〈澤田委員〉福祉避難所説明会と販売活動など、組み合わせで企画してくこともできるのでは。

〈妹尾委員〉各市町に福祉避難所を作ってほしい。強く思っている。災害時に子どもが安心して行ける場所。

〈小村委員〉地域活用プロジェクトの目指す姿は、療育が目指している子どもの将来像と重なる。もっと幼少期から取り組めることがたくさんあると感じた。防災については、施設での保護者や職員への周知がまだまだと感じた。西備支援の取り組みを伝える。

〈入江委員〉校外販売、校外実習などの話を聞いて、今後ももっと実施していただきたいと感じた。

〈佐藤委員〉防災についての取り組みはとても参考になった。障害者雇用についても積極的に進めていきたいので、地域型実習を今後もっと受け入れができればと考えている。

〈中野会長〉防災について、備蓄品一覧表などもあり分かりやすかった。備蓄品の数の根拠が明白になればよい。避難する際の交通手段の把握とシミュレーションが必要ではないか。車だったらどうするなど。地域活用プロジェクトの報告から、児童生徒の地域での活動がだんだんと広がっていると感じた。昔はあおぞら市くらいだった。路線バス沿線を大人が回って活用できそうな場所の開拓をしてもよい。

（７）閉会

〈中野会長〉昨年から会長をさせてもらっている。メンバー代わっているが、取り組みも充実している。フレッシュな発想で今後ともよろしくお願いします。

＊閉会后、本校高等部作業班が育てた椎茸の販売活動が玄関で行われた。